

APRICOT 2016 参加報告書

2016/03/21

Nicholas Tan Chee Kean

ニコラス・タン・チー・キェン

GMO インターネット株式会社

【目次】

1. APRICOT とは
 2. 参加したセッション名
 3. 特に印象に残ったセッション
 4. 今回の経験の生かし方
 5. 参加支援プログラムに対する所感
-
-

1. APRICOT とは

【APIA (APRICOT) はそもそも何か？】

東部・南部アジア・太平洋エリアを管轄する地域インターネットレジストリである APNIC(Asia-Pacific Network Information Centre)が深く関わっているのです。

アジア圏インターネットの各種取り決めや運用効率向上等を目的とした自由参加型の APNIC カンファレンス(APNIC)が毎年の夏(8,9月)にあるのですが、APNICは会社という立ち位置では資金等の自由度が限られるため、APIA という団体ができたとの話を現地で伺いました。

APIA は何かを管理する団体ではなく、念に 1 度の APRICOT の主催のみやっている組織とのことです。イベントとして、APNIC カンファレンスと APRICOT も似たような内容なのですが、APNIC は APNIC の運営をメインとしたカンファレンスで、APRICOT はもっと広い幅で ARIN, ICANN 等、他リージョンのインターネット管理団体も気軽に参加されるという差だけのようです。

※実際現地で違いについて APNIC の方に聞いてもはっきり答えられる方がほぼいませんでした。

APRICOT は大きく 2 つの部に分かれています。

①Workshop：インターネットの技術発信のための実践的な合宿のような初心者向けのプログラムです。セキュリティ、ワイアレス、仮想化、ネットワーク管理、上級 BGP の 5 つのコースがあります。

※1 週目：2/15(月)～2/19(金)

②Conference：インターネットの各種情報発信のための討論会(APOPS Plenary 等の Session)、

特殊なインターネット技術に特化した勉強会(Tutorial)、自分のAS番号を持った組織や企業のピアリングを促進させるセッション(Peering-Forum)が毎日平行で開催され、興味のあるセッションを自由に参加していくイベントとなります。

2. 参加したセッション名

«1st day»

- 【Social】Newcomers Orientation Breakfast
- 【Tutorial】Routing Registry Function Automation using RPKI & RPSL (Part 1)
- 【Tutorial】Routing Registry Function Automation using RPKI & RPSL (Part 2)
- 【Session】Opening Ceremony and APRICOT Plenary I
- 【Session】APOPS Plenary I
- 【Social】APRICOT Opening Social

«2nd day»

- 【Session】APOPS Plenary II
- 【Tutorial】BGP Techniques for Network Operators (Part 1)
- 【Tutorial】BGP Techniques for Network Operators (Part 2)
- 【Session】Peering Forum (3)

«3rd day»

- 【Session】Network Security
- 【Session】Making ends meet: IPv4 exhaustion and the transfer market
- 【Tutorial】BGP Multihoming Techniques (Part 1)
- 【Tutorial】BGP Multihoming Techniques (Part 2)
- 【Social】Meet the APNIC EC Cocktail

«4th day»

- 【Tutorial】Troubleshooting BGP
- 【Tutorial】Network State Awareness and Troubleshooting
- 【Session】APRICOT Plenary II and Closing Ceremony
- 【Social】APRICOT Closing Social

«5th day»

- 【Session】APNIC AGM (1)

【Session】APNIC AGM (2)

【Session】APNIC AGM (3)

【Social】APNIC Closing Dinner

3. 特に印象に残ったセッション

3.1. BGP 系 Tutorial セッション

ほぼ毎日行われていた BGP に関するインテンシブな勉強会で、特に講師の Philip Smith 氏の解説がとても分かりやすかったのが印象的でした。初歩的な知識から BGP の運用ノウハウ、トラブルシューティングまで幅広く Tutorial が構成されており、各国の ISP 運用者の失敗談や経験についてのディカッションもありました。

現在会社の業務上でもしばしば BGP ルータのオペレーションを実施することもあります。iBGP と eBGP の違い、経路広報のベストプラクティス、細かいトラフィック制御の手法等、普段自分の理解度が曖昧な知識の再確認となり、なんとなく普段やっているオペレーションに対して確実に自信アップに繋がったと実感できました。

3.2. 各国の技術者と交流を図る Social セッション

初日から毎日行われる Social セッション。

日本からの参加者はもちろん、他国の技術者と気軽にコミュニケーションが取れて、同じ職種でも別の業界、別の会社、別な国の方と出会い、ネットワーク技術やオペレーションのノウハウについて情報交換が出来て、とても充実した時間を過ごせました。

また、アジアパシフィックリージョンの企業と直接コネクションを作ることができたことも、今後自分のキャリアにはメリットになることと考えております。

※2日目には APRICOT の Social イベントはありませんでしたが、JPNIC フェロウシップ委員会関係者の交流会があったので、実質毎日 Social イベントがあったことになります。

4. 今回の経験の生かし方

まず、BGP の Tutorial で勉強した内容は直接自分のスキルアップに繋がったのみならず、Philip Smith 氏から頂いた資料もこれからのネットワークエンジニアのキャリアの中で大事な復習材料になりますし、自分の後輩へのレクチャーの際なども愛用していきたい聖典になるでしょう。

次、マレーシア人でありながら日本で就職・生活している中、英語の重要性を忘れかけていた自分がありました。ニュージーランドで行われたイベントだからというもあり、英語圏の国から訪れた参加者がマジョリティでしたので、各国の参加者とコミュニケーションしていくうちに英語で話す心地よさが蘇り、改めて英語が

できる強みを実感できました。これからも自分のアイデンティティを大事にし、自分にしかできないことを発掘していくことを意識していきたいと思います。

社外セミナーや勉強会等も含め今回は初めてでした。今までは自分にはそもそも興味が沸きませんでしたし、時間の無駄ではないかさえ思いました。でも今回 APRICOT に参加したことで、こういった社外イベントに参加するメリットを痛感しました。自分のスキルアップはもちろん、他の参加者とコミュニケーションを取ることでもチベーションアップに繋がること、違う価値観の共有し視野を広めること、そして人脈を広げること、自分のこれからのキャリア、そして自分の人間的成長にも極めて有意義なことだと分かりました。

上記のこと以外も、素直に参加してよかったなと思っていることが沢山あります。多々あるメリット中、ニューゼalandであった出会いや思い出を含め、今後の自分のキャリアでうまく行かないことがあった場合等には思い出すと自分の励ましになるであろうと考えております。

5. 参加支援プログラムに対する所感

今回の JPNIC のフェローシッププログラムのおかげで APRICOT2016 カンファレンスに参加できたこと、本当に心から感謝しております。ありがとうございました。

宿泊費から移動費、滞在期間内の日当まで全額支給して頂き、意見を言う筋合いもなく、ただただありがたい気持ちでいっぱいです。当初は自分の年齢が制限に近いことで後ろめたい気持ちもありましたが、それでも積極的に参加応募してよかったなと今は思っています。今後もこのフェローシッププログラムが続くのかは分かりませんが、もしまだ来年も実施されるのであれば必ず自分の後輩に強く勧めたいと考えております。

インターネットは世界中のユーザが一人ひとり貢献して良くして行くものということを今回で分かったので、私は今後の APNIC や APRICOT のイベントに自費でもできるだけ参加していきたいと思えるようになりました。現在所属の会社(GMO インターネット)でもインターネットに深く関わっている企業で、社内でもよりこういったイベントに参加する動きを加速させ、いつかは当社でも今回のようなフェローシッププログラムのスポンサーの一員になれたらと促進していきたいと考えます。

以上